

まえがき

我が国の道路橋は 1955 年以降の高度成長期(1955-1973)を境に急激に増加し、現在 15 万橋近い数のストックを抱えている。今後建設される橋については、維持管理負担を低減するとともに、できるだけ長期間供用できるものを建設していくことが必要である。そのためには、現在までに架替られた橋の供用年数、架替理由等の架替実態を把握することが重要であり、それをもとにライフサイクルコストを考慮した設計法を検討していかなければならない。

道路橋の架替実態に関する調査は、過去に昭和42年、昭和52年、昭和61年、平成8年の4回、約10年毎に実施されている。昭和42年には、建設省技術研究会道路部門指定課題「橋梁破損の実態とその対策に関する研究」において、昭和41～42年度に架替が実施された元1級国道の指定区間内の橋梁436橋について架替理由等の調査が行われた¹⁾。その後、昭和52年度、昭和61年度、平成8年度にはそれぞれ過去10年に撤去・架替と実施した一般国道、主要地方道、及び、一般都道府県道の橋梁、1545橋、1691橋、1923橋を対象として、撤去・架替理由や供用年数に関する調査が行われ、これらのうち、昭和52年度と昭和61年度の調査結果については、建設省技術研究会道路部門指定課題「既設橋梁の耐久性評価向上技術に関する調査研究」においても活用されている²⁾。

本調査は、平成18年度が前回調査の平成8年度から10年目にあたることから、過去10年間について、これまでと同様の調査を行い、既存の調査結果との比較を通して道路橋の架替実態の整理分析を行うものである。

本資料のとりまとめにあたっては、アンケート調査など各機関に多大なるご協力をいただいている。ここに謝意を表す。

- 1) 藤原，岩崎：橋梁の架替に関する調査結果(I)，土木研究所資料 第 2723 号，1989 年 1 月
- 2) 土木研究所橋梁研究室：橋梁の架替に関する調査結果(III)，土木研究所資料 第 3512 号，1997 年 10 月